

### 1-3 モニタリングによる最近の準静的すべりの時空間変化

2005年から、新たに発生した相似地震を同定し、その活動状況を、毎月ホームページで公開している。小繰り返し地震数の増減はプレート境界の準静的すべりの加速・減速に対応すると考えられる。



図3. 2006年1月～2009年7月までの1ヶ月ごとの小繰り返し地震の震央分布。2008年2月（四角枠）頃から、東北地方南部の海溝側での活動が活発である。2008年5月と8月（四角枠）に茨城県沖と福島県沖でそれぞれM7.0、M6.9のプレート境界地震が発生した。2009年の中ごろでも小繰り返し地震の活発な状態が続いており、2003年十勝沖地震後の活発化に匹敵する広がり・継続時間に見える。